

ランチ・クラス

千代田区立スポーツセンター多目的室

- 11月17日(日) 1:30-4:00 講師 富谷 佐千子
テーマ: New Year Dance 2025 から (その1)
12月22日(日) 1:30-4:00 講師 後日確定
テーマ: New Year Dance 2025 から (その2)
1月はNew Year Dance 2025 のため休みます。
お問合せ: 担当 渋谷明美 047-351-8581

Dance Around the World

11月4日(月・休) 1~4.30

杉並公会堂・グランサロン (JR 荻窪駅北口7分)
音楽: 大森ヒデノリ・小海弘子
¥2,000

更衣室なしのためお気軽な服装で

ダイヤグラムは9月ランチニュースをご覧ください。

- EH3 7AF J32 Book 40
A Castle in the Air R32 Book 43
*Cape Town Wedding S32 Book 39
*Antarctica Bound J32 Scotia 100th
Cadgers in the Canongate R32 Book 9
Oriol Strathspey S32 Book 32
The Laird of Milton's Daughter J32 Book 22
Hana Strathspey S32 Tokyo 25th
Shetland Shepherdess J32 Graded 3
Dancing in the Street R32 Book 42
From Scotia's Shores We're Noo S32 Leaflet
Awa'
A Trip to Drakensberg J32 Book 38
The Fife Hunt R32 MMM
The Swan and the Tay S32 Perth 800
The Homecoming Dance R32 2009 Maga

*ホームページのトップ写真用にマスクなしでお願いします。

2024-2025 年度運営委員

- チェア 境 雅子 047-368-3873
セクレタリ 西森 典子 043-485-2528
bon_accord417@amail.plala.or.jp
トレジャラ 小杉由美子 047-463-852
委員 横尾 容子 (ランチショップ担当)
047-447-5863
委員 渋谷 明美 047-351-8581
委員 鳥山 豊喜 044-577-5231

New Year Dance 2025

1月11日(土) 1~4.30
杉並公会堂・グランサロン
音楽: 大森ヒデノリ・青山るり
¥2,000

- Mrs Stewart's Jig J32 Book 35
The White Cockade R32 Book 5
Fair Donald S32 Book 29
John Cass J32 Book 49
The Saltire Society Reel R32 Leaflet
The Braes of Breadalbane S32 Book 21
Roaring Jelly J32 Foss
Mairi's Wedding R40 30 Pops 2
New Year Jig J32 Book 51
Miss Eleanor S32 Book 49
The Dunedin Festival Dance R32 Haynes
Bonnie Stronshiray S32 Campbell
Follow Me Home J32 Book 38
Autumn Colours at Nikko S32 Stott
The Wind that Shakes the Barley R32 Duthie

次回 Unit 1 筆記試験

試験日 2025年3月1日(土)
申込締切り 2024年12月7日(土)
受験希望の方は本部に直接申込んでください。
申込後、会場準備などのため、セクレタリにご連絡ください。詳しくはセクレタリまで。

運営委員会報告

- 2024.8.2 (港区生涯学習センター。以下同じ)
・トレジャラ交代による郵便貯金名義変更は難航したが完了した。
・11/4 Dance Around the World のプログラム決定。会費は¥2,000。MC 候補を話し合った。ダイヤグラムを9月のランチニュース裏面に記載する。
・8/24 の3ランチ会議における対処方針(とくに2025年の日本における試験)を話し合った。
・10/12 の Unit 1 試験の準備状況を確認した。
・本年2月のヤマト運輸「クロネコメール便」と日本郵便「ゆうメール」との合体により、各種チラシは「信書」扱いとなり、郵送料の増大が懸念される。各グループのチラシを同封できない月が予想され、その場合

は事前に「チラシ同封不可」を周知したい。

- ・マガジン 38 号ランチ版で紙厚を 70kg から 55kg に薄くしたが、支障ないようなので年会報を含め今後は 55kg 紙で発行する。
- ・委員会終了後、Unit 1 試験の主催者・監督者の役割を本部ガイドラインをもとに確認した。

2024.9.6

- ・11月のランチ・クラス講師候補を打合せた。12月のテーマは「New Year Dance からその2」とし、1月は休みとする。
- ・11/4 Dance Around the World—集合時間など準備の詳細をきめた。
- ・New Year Dance 2025 のダンス・プログラムを決定。
- ・本部年次総会におけるランチ代理人はクレメント篤子さんにお願いする。
- ・3ランチ連絡会で、「合同ダンス会を再び」提案あり。3ランチで持ち帰って10月中に結論を得ることになった。わがランチは「主管ランチは持回りを希望する」で回答する。同連絡会で Unit 2/3 の主管ランチが話合われたが結論は持越された。
- ・ランチショップ商品は8月末に全量入荷。9月初めに注文者に発送した。

2024.10.4

- ・12/22 ラunch・クラス講師候補、1/11 New Year Dance の MC 候補を決め、受諾可否を問合わせる。
- ・11/4 Dance Around the World の折に能登半島大雨災害義援金の寄付を募る。
- ・ランチ規約を改正し、英文規約を本部に送ったところ、最新のモデル規約に合わせるよう指導あり。ランチ運営に影響しない文言なので、本部指導に合わせ英文規約を変更する。
- ・3ランチ合同ダンス会は、「会場もランチ持回り」を他ランチに提案する。会場確保は抽選結果で左右されるため、11月23日に限定せず「10月から12月初めの間に」のほうがよいと考える。

最近の本部ニュース

- ・ソサエティ創立 100 年記念豪華本の出版は立消えとなった。日本3ランチ合同による昨年9月30日のダンス会の報告は Dance Scottish Together またはマガジンに掲載される。
- ・3年前のジーン・マーティンの辞任により、ソサエティ会長は空席となっている。会長は意思決定権や影響力をもたない象徴的存在であるが、その役割の明確化と新会長を年次総会で提案する。
- ・サマースクールの参加者大幅減により、2024年度の赤字は29,000ポンドから68,000ポンドに増える見込み。年会費値上げの一時凍結が考えられたが、マガジン郵送料の値上げもあって、年次総会で引続き値上げが提案されよう。(£28→£29の値上げ提案となった)
- ・サマースクール2024のヤンガーホール木曜のデモ・ダンスは中止した。
- ・今年の年次総会はエジンバラ開催だが、来年の場所はまだ決まっていない。

クラスで踊られたダンス

7月21日 トム鳥山

Miss Gibson's Strathspey	32S	Leaflet
The Princess Royal	28R	Book 2
The Wild Geese	32J	Book 24
The Reel of the 51st Division	32R	Book 13
Far North Queensland	32S	Brenchley
The Irish Rover	32R	30 Pops 2

9月21日 西森典子

Kotoku-in	32R	Jim Stott の
A Trip to Kamakura	32S	In the
The Nikko Falls	32R	Sunlight of
Autumn Colours at Nikko	32S	Nikko and
Sagami Bay	32J	Kamakura

フィドル奏者 大森ヒデノリの作り方 その1

ダンスといっても、身近には河内音頭くらいしかなかった大阪府八尾市で少年時代を過ごした私は、小2から地元のヴァイオリン教室に通うも、野球・剣道といったスポーツや野山で遊ぶのに夢中で、不真面目な習い事という感じでした。案の定中学に入学して暫くするとやめてしまい、同級生と結成したロックバンドでエレキギターやキーボードを弾き始めます。

中3のある日、バンドメンバーの小西くんから勧められた一本のカセットテープ、イギリスのロックバンド、レッド・ツェッペリンの『永遠の詩(狂熱のライブ)』に衝撃を受けジミー・ペイジのギターにどハマリ。特にアコースティック・ギターが使用されている楽曲の雰囲気が好きで、まさにこれが、後にフィドルで傾倒することになるヨーロッパ古楽やブリティッシュ・フォークの様式に溢れたものだったのですが、そうとは知らずに当時は夢中でコピーしたものでした。

その後、兵庫県西宮市の関西学院大学に入学。マンドリンクラブに入部。ジミー自身もアコースティック・ナンバーでマンドリンを演奏していて、ちょっと触ってみたいなといった軽い気持ちでした。そこで二人の運命の人と出会うこ

とになります。一人は後に伴侶となる後輩女子部員。もう一人は技術顧問の岡本一郎先生でした。先生はクラシック・ギター、リュート界の大御所で、日本の中世・ルネサンス古楽の草分け的存在「ダンスリー・ルネサンス合奏団」の主宰として活躍されていましたが、ご自身も当クラブ出身ということで指導に来られていたのです。

大学卒業後、先生から「大森くん、ちょっとフィードル弾けへんか？」と本当に軽いノリでお誘いをうけ、ダンスリーに参加することになります。フィードル (Fiedel) というのは、フィドルと語源は一緒なのですが、ヴァイオリンが登場する前時代に演奏された弓奏弦楽器の一つです。ちょうどメンバーが阪神淡路大震災に被災され、その代役ということだったのですが、当時ヴァイオリンもろくに弾いていなかった私によく声をかけてくださったものです。これが職業音楽家としてのスタート。25歳の時でした。

その後「若手メンバー」として定着し、フランスのトルバドゥールの歌曲や、14世紀イタリアの舞曲、エリザベス朝のポリフォニーなど、古楽演奏の研鑽を積む中、次第にフォークミュージックに興味を持つようになります。「今ある」音楽の中にフィードル演奏のヒントがあるのではと考えたからです。

古楽演奏の現場は当時の資料研究からスタートします。例えば中世フランス文学の中に吟遊詩人とともに楽師がフィードルを演奏していたという記述があったり、スペインの教会の中世写本にフィードルを演奏している楽師のミニアチュールが描かれていたり、イタリアのメディチ家が代々残してきた写本の中にフィードルで演奏されていた可能性のある旋律が当時の記譜法で残されていたり。

写本はその当時貴重だった羊皮紙に記され、字や楽譜を残せたのもごく一部の知識人だったことを考えると、資料として残っているものは実際に演奏されていた音楽の氷山の一角にすぎません。これを研究者、演奏者が現代の楽譜にしたり、楽器は実際にはこんな形状だったのでは、こんな構え方で弾いていたんじゃないか、こんなテンポでこんなリズムだったんじゃないかと、と考察・検証・復元。それをもとに演奏するわけですね。

その一方でフォークミュージックは、今まさに聴いて見ることができる「活きた」音楽。例えばフランスのブランル (Branle) やイングランドのモリスダンス (Morris dance) は、庶民の踊りがルネサンス宮廷舞踊としても人気を博し、コリオグラフや簡単な楽譜も残っているのですが、現在でもフォークダンスとして伝承されていたりするのがとても興味深く、フォークミュージックの中にそのスタイルの残照というかヒントが残っているのではと感じたのです。

そして世界中のいろいろな地域のフィドルが入っている音楽 (CD、レコード、ビデオ等) を入手し、長年演奏していなかったヴァイオリンを引っ張り出して中3の時のようにコピーしはじめたのです。これがフィドル奏者としてのスタート。27歳の時でした。(次号ブランチレターにつづく)



ダンスリー・ルネサンス合奏団 (1997年頃大阪市内でのコンサート)：リコーダー、リュート、ヴィオラ・ダ・ガンバ等と。左から3番目でフィードルを演奏している私と、右から2番目でシターンを演奏する岡本先生。

東京ブランチでも大いに活躍されている大森ヒデノリさんのフィドル奏者になるまでを述べていただきました。ダンスリー・ルネサンス合奏団40年記念コンサート (2012.9.15 兵庫県立芸術文化センター) の動画はこのQRコードまたはYouTube「ダンスリー・ルネサンス」で。



Loch Ness Monster – RSCDS Second Book of Graded Scottish Country Dances

ネス湖について

ネス湖に怪物はいるのだろうか？ この記事は伝説でなく湖に焦点を当てているので、怪物についてはこの号の別の記事で読んでいただきたい。

ネス湖はスコットランドの多くの湖（ロッホ）の中でもっともよく知られている湖（淡水湖）の1つであるが、最長の湖ではなく、最深でもなく、最大でもない。それらの1位は、それぞれロッホ・オーAwe（長さ38.8 km）、ロッホ・モラーMorar（深さ300 m以上）、ロッホ・ローモンドLomond（広さ71 km²）である。しかしながらネス湖の水の体積は最大で、これらの湖のそれを合計したものよりも大きい。事実、ネス湖の水量はイングランドとウェールズの全淡水湖と貯水池の水を合わせた水量よりも多いのである。信じられないかもしれないが、平均水深130 mと表面積59 km²をもって、ネス湖は7.5 km³の水を蓄えている（琵琶湖は30 km³）。



その深さと形から、水面下10メートルまでは季節変動をうけるが、ネス湖の温度は比較的安定している。生物学的な観点からみると、湖は比較的冷たく、その生物の多くは氷河時代からの生き残りである。ネス湖は、グレート・グレンを貫くカレドニアン運河（トマス・テルフォードが建設）の一部として使われている。



グレート・グレン（大圏谷）

ネス湖はグレート・グレンの北端に位置している。グレート・グレンとは、フォート・ウィリアムからインバネスまで、スコットランドを斜めに走る60マイル（97 km）の断層である。グレート・グレン断層は4.3億年から4.9億年前、地殻プレートの大移動期に形成された。約1万2千年前の氷河期には、断層に沿った氷河の溝ができ、深いだけでなく、急な斜面が形成された。

グレート・グレンは19世紀に大断層帯と認められたが、横方向移動を示す横ずれ断層（能登半島地震は縦ずれ断層）という重要性は、1930年代まで理解されていなかった。横ずれ断層は、プレート・テクトニクス理論につながる、

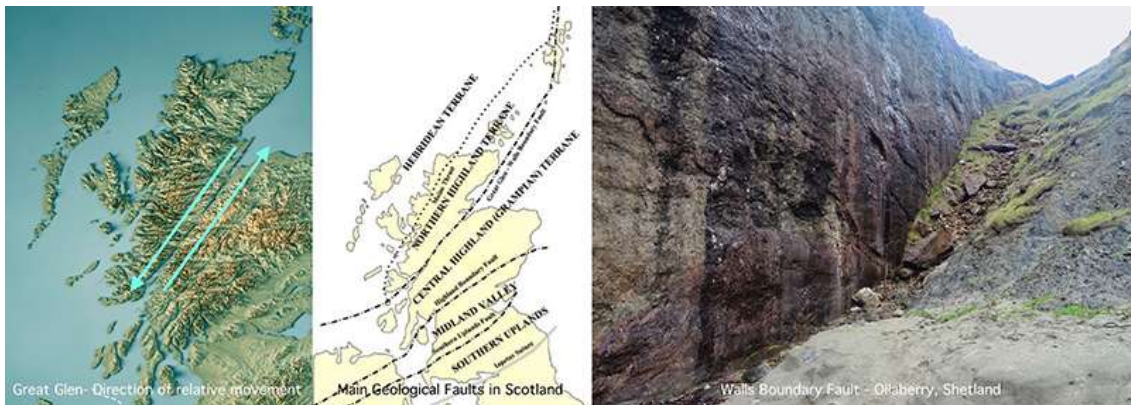
大規模な地殻変動の重要な証拠である。グレート・グレンの両岸の岩は相互に 65 マイル (104 km) ずれている。もうひとつの世界的に有名な横ずれ断層、カリフォルニアのサン・アンドレアス断層と異なり、幸いなことに、こんにちグレート・グレンはほとんど動いていない。



グレート・グレンの南西方向のながめ。手前ロッホ・ロッキー、奥にロッホ・オイヒ

地球地質学は魅力的であるが、われわれにとってはよくわからないものであり、地殻の形成が複雑であるだけでなく、地質上の年代を理解するのが困難なため、地質解明が始まった初期の地質学者に感謝すべきである。18 世紀のこれら先駆的な地質学者の 1 人が、現代地質学の父と呼ばれるエジンバラ出身のジェームズ・ハットン (1726-1797) である。彼はスコットランドを周回し、その調査によって、地球の年齢は千年単位ではなく、数百万年単位で測られるべきであるという結論に達した。これは 19 世紀のヨーロッパで非常に挑戦的な概念であった。彼は印象に残るフレーズでこの観察を要約した。「地球創成の痕跡も、最後の見通しもわれわれは見いだせない」。

これら初期の画期的な調査以来、地質学上の多くの事物が明らかにされてきた。グレート・グレン断層は、視認できるフォート・ウィリアムからインバネス間の 60 マイルだけでなく、さらに伸びていることが分かっている。北方では、断層はスコットランドの西海岸に沿って海底を通り、ウォールズ境界断層としてシェトランド島に表れる。南方ではロッホ・リニー Loch Linnhe を貫通し、ローン湾 Firth of Lorne にいたっている。グレート・グレン断層は大西洋の北米側まで続いている証拠もある。断層線は 2 億年前に大西洋中央海嶺が出現したときに破断された。



グレート・グレンの横ずれ方向 スコットランドの主要断層 シェトランド島オラベリーのウォールズ境界断層

それほど大きな国ではないのに、異常ともいえるほど多種の岩石がスコットランドには存在しており、初期の地質学者は岩石への関心と生活を組み合わせができ、幸運であった。さまざまな地質時代をつなぐ、3 億年前の古い多様な岩石と断層のある構造は、地球の年齢とプレート・テクトニクスを理解する上で、スコットランドの地質学を極めて重要なものになっている。

グレート・グレン断層は極めて不活動であるとはいえ、ときどき微小な攪乱を起こしている。ある研究者は、グレート・グレン断層の地震活動とネス湖の怪物の目撃とが一致するといっている。地震活動は、湖の振動や渦巻く泡を引き起こす可能性があるためである。

ウォーキング／サイクリング・ルートが2つあり、この周辺をさらに探索するのに適している。Great Glen Way は73 マイル (118 km) のフォート・ウィリアムからインバネスのルートで、ロッホ・ロッヒー、ロッホ・オイヒ、ネス湖の高みの森、そしてカレドニアン運河の船曳き道をめぐる。Loch Ness 360 はネス湖の周囲をたどる78 マイル (126 km) のルートである。

アーカート城

ネス湖の北の岬に壮大な遺跡として残っているアーカート城は、ピクト時代（西暦900年以前）にさかのぼる要塞である。西暦580年に聖コロンバがこの地を訪れたことが知られており、城の敷地でピクト人のブローチのかけらが見つかっている。



ネス湖から見たアーカート城

アーカート城は、1296年から1314年におけるスコットランド独立紛争の戦略的拠点であり、支配者がなんども変わった。中世後期ではアーカート城への主な脅威は西からやってきた。ロード・オブ・ジ・アイルズ（島々の領主）、マクドナルドは勢力拡大をはかって侵入を繰り返した。最後の襲撃は1545年であった。（1545年—徳川家康3歳）。

1690年のジャコバイト反乱の際には、城は政府軍の守備要塞となった。1692年に最後の兵士が引き上げたとき、彼らは城を爆破した。以後、城は廃墟となって荒れるにまかせられた。現在は Historic Scotland が所有・管理している。



アーカート城

その他のネス湖の見どころ

1896年、英国で最初の商業用水力発電所がネス湖南東側のフォイヤーズに作られ、その電力はブリティッシュ・アルミニウム会社の工場に供給された。発電所は1967年まで稼働し、アルミニウム生産がフォート・ウィリアムに移ると、この発電所は揚水発電方式に改変された。電力需要が大きくなるときは発電し、需要が小さくなるときはポンプでネス湖からさらに水位の高い貯水池に水を揚げる、というものである。

1952年、ネス湖は水上スピード記録の舞台となった

ジョン・コブは1947年に時速394.19マイル（630km）の陸上スピード記録を打ち立てたが、水上のスピード記録にも挑戦した。ジェット・エンジンを動力としたボート、「クルセーダー」は時速200マイル以上のスピードを出したが、水面の予期しなかった波に突入し、ボートはクラッシュ、ジョン・コブは死亡した。右：グレンアーカートにあるジョン・コブの記念銘板。



クルセーダー号



スコットランドの歴史の瞬間 Dance Scottish at Home, Issue 13, 20/6/2020

Loch Ness Monster

The Loch Ness Monster or “Nessie” ネス湖の怪物またはネッシー - 神話、伝説、金儲け、そして1,500年にわたる推測

スコティッシュ・カンントリー・ダンス、民間伝承にとり込まれた怪物、長い首、3つのこぶ、野獣、クジラ、奇妙な光景、明らかにするべき神話—ネッシーはこれらのすべてであり、彼（彼女かもしれない）は千年以上におよぶ推測と議論を引き起こしてきた。その物語・歴史は紀元500年に始まる。

紀元500年—北部スコットランドにローマ人が侵入したとき、ピクト時代の石に、ローマ人は長くちばしと足ひれをもつ奇妙な獣の画を刻んだ。

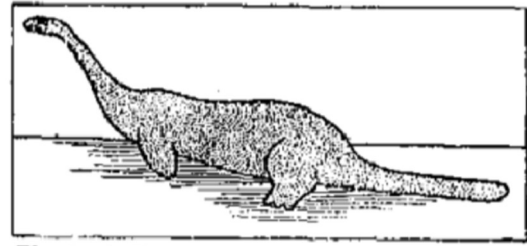
紀元565年（蘇我氏一族隆興の時代、聖徳太子誕生は9年後）—聖コロンバ光来百年後に、アイオナ修道院長のアドムナンは聖コロンバの物語を書いたが、聖コロンバはネス湖周辺を訪れたとき水生動物を見たという。それは泳いでいた信者の1人を食べようとしているように見えたという。聖コロンバは獣に「近づくな、その男に触れるな、立ち去れ」と叫んだ。それは水生の野獣であったのか、それとも水の精だったのか。これがネス湖の怪物の最初の目撃情報なのか？ 19世紀の終わりにいたるまで、人々は、聖コロンバ一行は野獣に出会っ

たのだと思っていた。とくに1871年と1888年に「ひっくり返ったボートのような動き」と「大きなずんぐりした足の動物」という、つながりのない2つの目撃があった。20世紀に技術が発展すると、目撃の話は急速に広まるようになり、その証拠も生み出される、あるいは証拠を生み出すようになった。

1933年—ネス湖岸をめぐる新しい道路が完成し、ドライバーは湖をはっきり見渡せるようになった。5月2日、インバネス・クーリエ紙は、ジョージ・スパイサー夫妻の「とんでもない大きさの動物を見た」という話を掲載した。かつ、その写真を明らかにした。写真はフォイヤーズのヒュー・グレイが撮ったもので、1934年1月のオートバイ・ライダー、アーサー・グラントの話が続いた。アーサー・グラントは午前1時ごろ、月明かりの中で生き物にぶつかりそうになり、その生き物は長い首の先に小さな頭があった、と主張した（次ページの挿絵）。2枚目の写真、「外科医の写真」が公表されたが、これはロンドンの婦人科医ロバート・ケネス・ウィルソンが撮ったもので、おそらくその生き物の頭と首の最初の写真である。



This is an artist's conception of what Arthur Grant saw early one morning as he drove down a road alongside Loch Ness, Scotland. Grant dismounted and started to investigate, but the strange animal sneaked and plunged into the water.



The Loch Ness Monster, As Sketched by Mr. A. Grant From Lieut.-Commander Gould's Interesting Monograph Upon the Subject.

この騒動はネッシーの物語に2つの大きな刺激を生み出した。ネッシーを捕えるために著名な狩猟家、マーマデューク・ウェザウェルが派遣された。ネッシーを捕えることはできなかったが、マーマデュークは足跡を発見したと語った。それは本物だったのか？ そうではない。のちに分かったことだが、ぬいぐるみのカバの足を石膏でかたどったものであった。つぎはサーカスの興行主、バートラム・ミルズである。彼はネッシーを捕えたものに2万ポンドの賞金を出すと発表した。2万ポンドを現在の価値になおすと2百万ポンド(3~4億円)になる。ネッシーは捕えられなかったが、バートラムの商売は莫大な利益をあげた。ネス湖近くで催した彼のサーカスのきっぷは売れに売れた。技術の進歩もまたネッシーの存在を記録した。

1951年—林業従事者のラフラン・スチュアートが、3つのこぶのある写真を撮った。2枚目を撮ろうとしたとき、カメラが壊れた。

1960年—ネッシーの存在を実証するため、ティム・ディンズデルは定期的に旅行した。彼は複数回、怪物を見たと主張し、1960年4月23日に正体不明の「何か」が湖を横切っている有名な映画を撮影した。

1961年—ネス湖現象調査局が設置され、2隻の潜水艇が購入された。ネッシーは見つからなかったが、大きな水中洞穴が見つかった。ネッシーの住み家なのか？

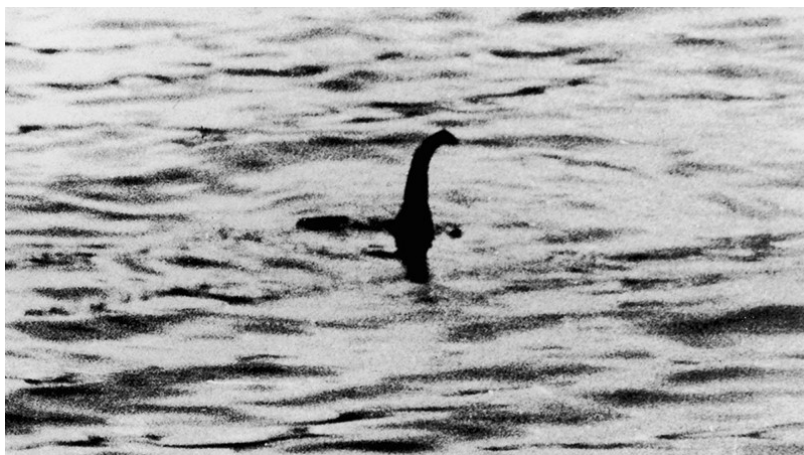
1973年—ネッシーを捕えて女王に献上しようと、石原慎太郎参議院議員を総隊長とする探検隊が赴いた。英国民から総スキャンをくらい、不成功に終わった。

1975年—ヘメル・ヘムステッドの消防士4人は、ネッシーはオスであると確信し、オスを引き付けるにはメスがよいと考えた。そこで彼らは張りぼてのメスのモンスターを作り、まつ毛をつけ、録音した音もつけた。当然のことながら、水に浮かべたとたんに壊れた。

ソナー(水中音波探知機)と水中カメラは1980年代・90年代にたくさん話題を作り出してきたが、どれもネッシーを確定するものではなかった。

21世紀および2007年—1人の技術者が、約14メートルの長さでかなりの速さで動く、黒い推進体のビデオを撮影した。ビデオはBBCスコットランドや他のテレビ局でも放映されたが、それが本物であるのか、実際にどれほどの大きさであるのか、だれもが確信を持ってないでいる。

ピクト時代に石に刻まれてから1,500年、ネッシーはいろのか、それとも神話なのか謎のままである。有名な下図の「外科医の写真」は、1994年にニセモノ、巧妙に仕組んだでっち上げであることが明らかになった(洗面器にオモチャを浮かべて撮った)。たぶん、次の10年は、謎を解くことができる新しい技術をもたらすであろう。



国際ブランチのウィークエンド、イタリア 2022

国際ブランチ（インターナショナル・ブランチ）は、近くにブランチのない RSCDS 会員、国際的にさらに交流・ダンシングを楽しみたい会員のために、ウィーンのスージー・メイヤーが主唱し、2004年に設立されたブランチである。2007年のエストニアのタリンを初めとして2年ごとに異なる場所でウィークエンドを開いており、近年ではコペンハーゲン（2015年）・キプロス（2017年）・ユトレヒト（2019年）・イタリアのチビタノーバ・マルケ（アドリア海に面した港町、2022年）、今年はおスロで開催され、2026年は北志賀高原での開催が予定されている。どのようなウィークエンドであったのか、2022年10月26日の Dance Scottish Together に載ったイタリア 2022 のレポートをご紹介します。オスロのレポートは公開後、あらためてお知らせしたい（トム鳥山）。



長く待ち望まれ、時間のかかった計画の末、国際ブランチのイタリア 2022 イベントがついに9月30日から10月9日まで開催され、再び大成功を収めた。ダンス・ウィークエンドとツアー・ウィークの組み合わせは、毎回異なる場所で行われ、私たちのブランチに特有のものであり、16カ国から110人のダンサーが参加したことをうれしく思っている。パンデミック後、旅行できるかどうかは何カ月も続いた後、誰もがそこに到着したことにとっても安堵し、古い友人に会い、新しい友人を作り、イタリア人が守ってきた美しいマルケ地方を観光し、楽しい時間を過ごした。

アメリカ東海岸からエルカ・ベイカー（フィドル）、アメリカ西海岸からアンディ・インブリー（ピアノ）、そして英国からフィル・ジョーンズ（アコーディオン）が加わったことをうれしく思っている。3人は一緒にすばらしいサウンドを生み出し、夜のプログラムの終わりまで人々をダンスフロアに留め、ジグやリールに飛翔感を与え、ストラスペイに深みを与えた。

午前中のクラスでは、パリ・ブランチのアントワヌ・ルソー、今はフォルカーク近郊ボーネス在住のソフィ・ヨーセフ、ボローニャのサミュエレ・グラツィアーニがわれわれの爪先をずっと立たせてくれた。3人は私たちを興味深く、選び抜いたダンスにいざない、月曜日の朝、私たちの脚と足が痛くなったかもしれないが、私たちの姿勢とスマイルは確実によくなった。午後は、アンコーナとリビエラ・デル・コネロへの小旅行を楽しみ、この地域の豊かな歴史と美しい光景、そしておいしいアイスクリームを見つけた。

地元のダンス・グループを巻き込むことはイベントを開催する目的の一つであり、アンコーナのアカデミア・ダンツェ・オットチェンテシェ（19世紀ダンスのアカデミー）から多くの地元のダンサーがクラスや夜のダンス会に参加してくれたことをうれしく思っている。彼らの18世紀の踊り演技は、ケイリーの夜のハイライトだった。ケイリーといえば、参加者全員の賛同を得て、スージー・メイヤー基金の抽選会で800ユーロ弱を集めた。

ダンス・ウィークエンドの後、65人が残り、ラベンナのすばらしいモザイクを訪れ、ボローニャに5泊し、そこからパルマとモデナを小旅行した。ボローニャは「ラ・グラッサ」（脂肪）として知られているところなので、パルマ・ハム、パルメザン・チーズ、ランブルスコ、バルサミコ酢、ラゲースソース、モルタデッラ、トルテリーニなど、地元の珍味はかなり試食されたと想像できる。私たちの何人かは、木曜日の夜にカロリーを燃やしたのだが、それはアレッシア・ブランキとサムエレ・グラツィアーニが指導する北イタリア・ブランチのクラスだった。

最終のエンディングは、キース・スミスとアンヌロール・ラトゥールのすばらしい音楽で、160人のダンサーでフロアがいっぱいになった、ボローニャにおけるユース・ブランチの拡大ウィークエンド・ボールだった。その夜のほとんどでエルカ・ベイカーも演奏した。特に、私たちは2021年にユース・ブランチと戦略的パートナーシップを結び、ユース・ブランチ会員が35歳を超えたときは国際ブランチに参加することを奨励していたので、よいタイミングのイベントだった。クレア・クーニンとユース・ブランチ委員会のすばらしい協力に感謝している。今後も一緒に働く機会があれば幸いである。



クリス・ハリス、ジャン・ジョーンズ、アン・スコビー、ブレイン・ピート、篤子クレメント、ブライアン・ローズ
(イタリア 2022 に参加した組織委員会メンバー)

能登大雨災害義援金の募金

- Dance Around the World 会場で -

1月の地震からやっと復興が始まった能登地方、9月の大雨で再び大災害に見舞われました。東京ブランチでも能登にお住いの方のために、11月4日のDance Around the World 会場で会員みなさまのご厚意をいただき、わずかであっても援助したいと思います。当日、募金の紙袋を用意いたしますので、よろしく願いいたします。

国際ブランチ Weekend 2026

2026.10.16~19 (3泊4日)

北志賀高原ホテルタガワ (北陸新幹線飯山駅下車)

¥63,000 (予定)

音楽 イアン&ジュディス・ミュア

講師 リンダ・ヘンダーソン&小山芳樹

世界各国に会員を擁するインターナショナル・ブランチ (国際ブランチ)、次回のウィークエンドはヨーロッパを離れて北志賀高原で開催されます。大勢の日本人ダンサーの参加を希望しています。いまからご予定を。

ブランチ行事予定

6月初め 年次総会

8月下旬 Book 54 ダンス講習会

杉並公会堂グランサロン

11月 ブランチニュースは休みます

11月のブランチニュース、ブランチレターの発行はなく、次回発行は12月下旬になります。この間のお知らせはブランチホームページをご覧ください。

お問い合わせ、ブランチ活動やレターに関するご意見・ご感想など、遠慮なくセクレタリ西森典子までお寄せください。グループちらしの配布依頼も西森あてにお願いします。